

## 社会福祉学科

### 教育課程編成方針（カリキュラム・ポリシー）

#### 【教育課程・教育方法】

社会福祉学科では、社会福祉的な視点から物事を把握する力および学科ディプロマ・ポリシーで示した能力の修得のため、以下の科目群を配置し、社会福祉を段階的・体系的に学べるようにしている。初年次には問題・認識系（基幹科目群）科目、その後に専門的な知識や技術を深めるための制度・政策系（政策科目群）科目、方法系（実技・実践科目群）科目、個別領域系（福祉分野科目群および福祉マネジメント科目群）科目、3年次・4年次では総合系科目を配置している。また、他学科連携科目群も配置し、自らの専門を活かした学びができるのも特徴である。

本学科で提供する科目する科目は以下のとおり。

#### 基幹科目群（問題・認識系、総合系）

本学科の学生は全員1年次に基幹科目である「基礎演習」、「社会問題」、「社会福祉発達史」を履修する。これらの学びを通して、社会福祉のものの見方に幅広く触れる。また、大学での学びの基礎となる能力の修得も目指す。

また、本学の学生は全員3年次と4年次に10名程度の少人数のゼミナール（「社会福祉演習Ⅰ・Ⅱ」）を履修する。ゼミナールは自身の興味関心に基づいて自由に選択できることが特徴である。学びの集大成として全員が4年次終了時には卒業研究として卒業論文の執筆に取り組み、その成果を発表する。卒業論文のテーマも自由に設定している。

#### 政策科目群（制度・政策系）

1年次後期からは社会福祉の基本的な構造を理解するための科目の履修が始まる。社会福祉行政、社会保障などの専門知識を深めるとともに、2年次には全員が「労働法」を学ぶことで、働く人の福祉、自身のキャリアについても考える。

#### 実技・実践科目群（方法系）

1年次後期にソーシャルワークの基礎を学んだうえで、2年次からはその専門知識をさらに深め、少人数クラスで実施する「ソーシャルワーク演習」「ソーシャルワーク実習指導」「ソーシャルワーク実習」を通して、ソーシャルワークの全体像の理解と修得を目指す。

また、2年次からはインタビュー、アンケート、フィールドワークといった社会調査の様々

な方法を学び実践する科目も配置している。さらに、メンタルヘルスや困窮者支援などの社会福祉の多様な「現場」を実際に訪れ、課題に直面する当事者や支援活動に従事する人などの声に触れるとともに、問題の社会構造的要因分析の視点から学びを深める。

#### 福祉分野科目群（個別領域系）

「児童」「障害」「高齢者」「国際」「女性」「医療」「家族」「貧困」「メンタルヘルス」「労働」など自身の興味関心のある分野を深め、社会福祉の専門性を高める。

#### 福祉マネジメント科目群（個別領域系）

今日の福祉の動向を学ぶことのできる科目群である。たとえば、社会福祉行政における地方自治の現状と課題、市町村のあり方、社会福祉サービスの経営などを学ぶ。

#### 他学科連携科目群

「異分野連携実践演習」を通して、自身の専門を意識し、他者との協働・連携を学ぶ。

#### 【学修成果達成のための科目】

- DP1 基幹科目群、福祉分野科目群、（実技・実践科目群）
- DP2 基幹科目群、政策科目群、（福祉マネジメント科目群）
- DP3 基幹科目群、福祉マネジメント科目群、（政策科目群）（福祉分野科目群）
- DP4 基幹科目群、福祉分野科目群
- DP5 基幹科目群、実技・実践科目群
- DP6 基幹科目群、実技・実践科目群、他学科連携科目群
- DP7 基幹科目群、福祉分野科目群、他学科連携科目群、（実技・実践科目群）